

(様式第1号)

平成29年4月6日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : 医療に関する領域

科 目 名 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 514-0003

三重県津市桜橋 2-131 三重県社会福祉会館 2階

電話 : 059-264-7741

FAX : 059-264-7742

E-mail : mie_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会 印

申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 29 年 1 月 16 日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名 申請責任者氏名	三重県介護福祉士会 研修担当 森 聖志
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131 Tel : (059)-(264)-(7741) Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : 医療に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 疾患・障害等がある人の生活支援・連携 I (2単位)
申請する研修名	
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	医療に関する領域	
科目名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・認定介護福祉士として、生活支援の場面で必要となる医療的ケアや判断及び医療職等との連携の際の根拠となる医療に関する基礎的な知識を獲得させる。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援場面で必要となる解剖生理、病態生理、症候、疾病等の基礎的な内容を理解し、他者に説明できる。 ・疾患・障害等について、その機序、主な症状、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できる。 ・生活支援場面で医療職等との連携を図る際の根拠となる医療の知識を身に付けることができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○生活支援場面で必要となる解剖生理、病態生理、症候、疾病等に関する基礎的な知識</p> <p>【「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I」で扱う疾病・症候】</p> <p>発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、便秘、失禁、頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振、動悸、不整脈、胸痛、難聴、視力障害、眩暈、麻痺、振戦、腰痛、膝痛、不眠、褥瘡</p>	<p>○医療に関する基礎的な知識を理解する必要性（2.5時間）</p> <p>（講義）認定介護福祉士として、生活支援の場面で必要となる医療的ケアや判断及び医療職等との連携の際に医療に関する基礎的な知識とそれがなぜ必要なのかどのような知識が連携に必要なかを理解する。</p> <p>○事前学習①（6時間）</p> <p>生活場面で必要となる解剖生理、病態生理、症候生理、症候、疾病等に関する基礎的な知識の各症状（発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、便秘、失禁、頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振、動悸、不整脈、胸痛、難聴、視力障害、眩暈、麻痺、振戦、腰痛、膝痛、不眠、褥瘡・25症候）について症状別でA4、パソコン使用、300～400字にまとめる。</p> <p>○事前学習②（6時間）</p> <p>①の事前学習の理解の上、介護現場で具体的事例を各症候別に、症状の状態観察内容をA4、パソコン使用、400字程度に記録する。</p> <p>具体的事例がない場合は、症状の状態を</p>

<p>○疾患・障害等において、生活支援に必要な基礎的な知識</p> <p>各疾患・障害等において次の内容を踏まえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①機序、症状、診断・治療、経過と予後 ②主な薬の知識（作用と副作用） ③リスクと対応 ④生活支援の留意点・観察ポイント ⑤他職種と共有すべき情報 等 <p>【「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ」で扱う疾患・障害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ①神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)等) ②脳血管疾患(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作(TIA)等) ・高次脳機能障害 ・循環器系疾患（慢性虚血性心疾患・狭心症・急性心筋梗塞・高血圧性疾患） ・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患・誤嚥性肺炎・不顕性肺炎） ・代謝性疾患（脂質異常症・糖尿病） ・筋骨格系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ①骨関節疾患（膝関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ・腰部脊柱管狭窄症） 	<p>調べ、A4、パソコン使用、400字程度にまとめる。</p> <p>事例①. ②により、生活支援をする介護現場で日常的に起こる症状を指導者として具体的に理解することができる。</p> <p>○事前学習③（6時間）</p> <p>一般的に実施されている治療や用いられている薬の知識を学ぶ事が目的ではない。そうした治療法や薬による影響に関する知識を学び、利用者のアセスメントや他職種連携の場で実践活用できるようにすることを目的とする。</p> <p>神経筋疾患・脳血管疾患・高次機能障害・循環器系疾患・呼吸器疾患・代謝異常疾患・筋骨格系疾患・精神疾患・知的障害・発達障害・その他の障害（11）の各疾患群から1つずつ選択し、①機序、症状、診断・治療、経過と予後②主な薬の知識（作用と副作用）についてA4、パソコン使用、400～800字程度にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ①神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）等） ②脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作(TIA)等) ・高次脳機能障害 ・循環器系疾患（慢性虚血性心疾患・狭心症・急性心筋梗塞・高血圧性疾患） ・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患・誤嚥性肺炎・不顕性肺炎） ・代謝性疾患（脂質異常症・糖尿病） ・筋骨格系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ①骨関節疾患（膝関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ・腰部脊柱管狭窄症） ②高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等） ・精神疾患（統合失調症、うつ病、せん妄、アルコール依存症候群、睡眠障害等） ・知的障害（精神遅滞）
--	---

	<p>②高齢者に多い骨折等 （大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患（統合失調症、うつ病、せん妄、アルコール依存症候群、睡眠障害等） ・知的障害（精神遅滞） ・発達障害 ・その他の疾患：老人性白内障、緑内障、老人性難聴 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害 ・その他の疾患：老人性白内障、緑内障、老人性難聴 <p>○事前学習④（6時間） 事例学習③で選択した疾患・障害の③リスクと対応④生活支援の留意点・観察ポイントについて、A4、パソコン使用、400～800字程度にまとめる。</p> <p>○事前学習③④でまとめた疾患・障害における生活支援に必要な基礎的知識（機序・症状・診断・治療・経過と予後・服薬の作用と副作用・リスクへの対応・生活支援者としての留意点と観察のポイント）を理解し、集合研修時にグループ演習をし、他者にその説明が出来、アセスメントや他職種連携の場で実践活用できるようにする。（演習3.5時間）</p>
研修方法	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <p>○集合研修講義と課題学習を組み合わせで行う。 ○課題学習は、①②③④参考資料を読み自己学習を自宅で行う。 評価は担当講師が行う。</p>	
研修時間	30時間（集合研修 6時間、課題学習 24時間）	
修了要件	<p>○全課程出席を要する。やむ得ない事情「公共交通機関等の影響、冠婚葬祭等」による遅刻、早退については10分を上限として認める。集合研修に関しては、10分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○筆記試験は50問程度とし、A～C評価（100点満点中60点以上）を合格とする。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価になったものが「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」が受講できる。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。やむ得ない事情による欠席があった場合には別途試験日を設定する。再試験は複数回の受験を可能とする。</p>	

	○欠席の場合は修了を認めない。
講師要件（講師の選定基準）	○当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者。
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	特になし。
修了評価	修了評価は以下により行う。 ①出席状況が修了要件を満たしていること。 ②筆記試験（50問程度9により行う。100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価とする。A～C（100点満点中60点以上）を修了とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名（講師1名9
開催場所（都道府県）	三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131） または ユマニテク医療福祉大学校（三重県四日市市塩浜本町 2-34）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等（届出事項）

(1)研修の実施予定	
実施日	① 平成 29 年 9 月
	② 平成 30 年 2 月
	③
開催場所（会場）	① 三重県社会福祉会館（三重県津市）
	② ユマニテク医療福祉大学校（三重県四日市市）
	③
(2)講師	
担当、氏名及び略歴	○疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I 吉田 節子氏（ユマニテク看護助産専門学校 副校長） 【学歴】 国立名古屋病院附属高等看護学院 昭和 41 年 3 月卒業 佛教大学社会学部社会福祉学科 平成 16 年 3 月卒業 【資格】 看護師（厚生省 第 162607 号） 昭和 41 年 4 月取得 看護教員講習会（厚生省認定愛知県主催第 29 号） 昭和 56 年 10 月 介護技術講習主任指導者養成講習会修了

	<p style="text-align: right;">平成 16 年 3 月</p> <p>介護教員講習会課程全部免除（厚生労働省社会援護局基盤課）平成 20 年 3 月</p> <p>医療的ケア教員研修会修了（日本介護福祉士養成施設協会）平成 27 年 2 月</p> <p>【略歴】</p> <p>愛知県がんセンター（看護婦） 昭和 41 年 4 月～昭和 45 年 4 月</p> <p>愛知県立愛知病院（看護婦） 昭和 45 年 4 月～昭和 46 年 12 月</p> <p>愛知県医師会春日井准看護学校（専任教員） 昭和 55 年 2 月～昭和 63 年 7 月</p> <p>日本福祉大学中央福祉専門学校（専任教員 学科長） 平成元年 4 月～平成 13 年 3 月</p> <p>愛知県新城大谷大学短期大学部（助教授 教授 学科長） 平成 13 年 4 月～平成 20 年 3 月</p> <p>自由が丘学園自由が丘幼稚園（看護師） 平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月</p> <p>愛知新城大谷大学短期大学部（教授） 平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月</p> <p>ユマニテク看護助産学校（副校長） 平成 24 年 3 月～現在に至る</p> <p>【教育歴（介護職向けの講習）】</p> <p>介護教員講習会講師（介護教育方法 介護過程） 東海北陸ブロック 東北ブロック</p> <p>ファーストステップ研修（介護過程） 愛知県介護福祉士会</p> <p>セカンドステップ研修（介護過程） 愛知県介護福祉士会</p> <p>介護実習指導者研修（介護過程） 愛知県介護福祉士会</p> <p>【介護に関する著書】</p> <p>「介護福祉学習辞典」吉田宏岳監修 編集幹事・著 医歯薬出版 2003 年</p> <p>新・介護福祉士養成講座「介護過程」編集委員・著 中央法規出版 2009 年</p> <p>「介護福祉のための医学一般増補版」富野康日己・吉田節子編著 医歯薬出版 2013 年</p> <p>担当する講義棟 修了評価 吉田節子氏 履歴等は同上</p>
(3) 実施体制	
<p>研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)</p>	<p>認定介護福祉士養成研修実行委員会（常勤：1 名、非常勤：6 名） 実行委員会事務局（担当事務局員、常勤 2 名）</p>

	研修実行員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。また、できる限り研修実行委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	大田 京子
機構問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
機構問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
受講問合先部署	三重県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	森 聖志
受講問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合先 e-mail アドレス	mie_kaifuku@ybb.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低 10 年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	長谷川千恵子（担当の事務局員）

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：医療に関する領域

科目名：疾患・障害のある人への生活支援・連携

(1日目)平成29年9月18日

区分	科目名	時間	内容
	受付	8：30～9：00	
1	○医療に関する基礎的な知識を理解する	9：00～11：00	(講義) 認定介護福祉士として、生活支援の場面で必要となる医療的ケアや判断および医療所との連携の際に医療に関する基礎的な知識とそれがなぜ必要なのか、どのような知識が連携に必要なのかを理解する。
	休憩	11：00～11：10	
2	○疾患・障害における生活支援に必要な基礎的な知識を理解し、他者に説明ができ、アセスメントや他職種連携の場で実践活用できる。	11：10～12：10	(講義と演習) 事前課題③④でまとめたものを、グループ内で他者に説明する。
	休憩	12：10～13：10	
3	○疾患・障害における生活支援に必要な基礎的な知識を理解し、他者に説明ができ、アセスメントや他職種連携の場で実践活用できる。	13：10～15：10	(講義と演習) 事前課題③④でまとめたものを、グループ内で他者に説明する。 まとめ
	休憩	15：10～15：20	
4	理解度確認試験	15：20～17：00	筆記試験 50問